

令和2年度 千代田町立西小学校 学校評価一覧表②(様式2)

| 評価対象 | 評価項目 | 羅針盤 | | | | 具体的 数値目標 | 自己評価 | | | | 学校関係 者評価 | 学校関係者評価委員の意見 | 今後に向けての学校の考え |
|--------------------------------------|--|---|---|---|---------|-------------|---------|---------|----|---|---|---|--------------|
| | | 保護者向け | 児童向け | 職員向け | | | 保護者 | 児童 | 職員 | 総合 | | | |
| キ ャ リ ア 教 育 目 標 | ○かかわる人に対して優しい気持ちをもち、困難があってもあきらめず、目標に向かって努力する姿勢を身に付けた児童が育っているか。 | お子さんは、相手の立場や気持ちを考えた親切な行動や言葉がけができる。 | 相手や友だちの気持ちを考えて、やさしい言葉がけや親切な行動を心掛けている。 | 子どもたちが相手の立場や気持ちを考えた親切な行動や言葉がけができるよう指導している。 | 80%以上 | 83 B | 83 B | 97 A | B | A | ・西小よい子のルールに基づく指導がなされていると感じる。 ・相手の立場や気持ちが分かるような指導を行うことは、「いじめ」の減少にもつながると考える。学力向上とは別に重要なこととして、指導をお願いしたい。 | ・「西小よい子のルール」の定着に向け、定期的な振り返りを行う。 ・道徳や特別活動等を通して、確かな人権感覚を身に付けられよう指導する。 | |
| | 学校は、学習や運動、行事などで子どもたちが目標を立て、それに向かって努力を続けるよう工夫して指導に当たっている。 | 学期初めや行事、授業のときに立てた目標に向かって、進んで学習や運動などに取り組み努力している。 | 子どもたちが目標に向かって主体的に取り組み、努力を続けられるよう指導・支援を工夫している。 | 80%以上 | 94 A | 84 B | 94 A | A | A | ・児童一人一人に寄り添い、先生方がよく指導されていると感じる。 ・目標を立てそこに向かって進むことが大切である。夢や目標をもって次のステップに進める指導をお願いしたい。 | ・キャリアパスポート等を活用し、学年・学期・行事等での目標を明確にさせるとともに、取り組みへの振り返りを行う。 ・児童の努力している姿を見取り、適切な声掛け、励ましを行う。 | | |
| | お子さんは、さまざまなことに対して、うまくいかないことがあってもあきらめず、粘り強く取り組んでいる。 | 学習や運動などで失敗したりうまくいかなかったりしてもあきらめずに取り組んでいる。 | 失敗しても困難があってもあきらめずに取り組めるような指導・支援をしている。 | 80%以上 | 73 C | 82 B | 97 A | B | A | ・今年度はコロナ情勢で登校日数、行事が思うようできない中、児童の頑張りがうかがえる。困難があってもあきらめない指導、支援を続けていただきたい。 ・実社会においても途中であきらめないで最後までやり通すことで成功することもあるので、継続して指導をしていただきたい。 | ・学習や作業に最後まで取り組ませたり、係活動等で責任をもってやり通すことを継続して指導する。最後までやり通したときには、称賛し自信をつけさせる経験を積み重ねていけるようにする。 | | |
| 確 かな 学 力 | ○児童に望ましい家庭学習習慣が身についているか。 | 学校が「ちよだチャレンジウィーク」等を設定したり、「毎日の家庭学習」を配付したりすることで、子どもたちに読書や家庭学習が定着している。 | 「毎日の家庭学習」で示された時間、宿題や読書などにとりくんでいる。 | 宿題や自主学習、「ちよだチャレンジウィーク」等を活用して、毎日の家庭学習の定着に努めている。 | 80%以上 | 76 C | 75 C | 89 B | C | B | ・宿題が出るが、家でやる時間が少ない。学校でも反復の勉強を行う等の工夫をしていただけるとありがたい。 ・予習復習等、家庭学習による学力向上を図り、児童をその気にさせることが大切だと考える。 | ・前時の授業内容を確認したり、学習した内容をもとに問題を解決したりするなど、家庭学習の意義を再確認させる。 ・段階を踏んで家庭学習時間を伸ばしていけるような工夫を行う。 ・自主学習への取組の参考となるノートを児童や保護者へ紹介する。 | |
| | ○児童の実態を踏まえ、基礎基本の定着を目指した学習指導を行っているか。 | 資料の提示や発問の仕方等を工夫したり、教科担任制を取り入れたりとって「わかりやすい授業」になっている。 | 学校の授業は分かりやすい。 | 資料の提示や発問の仕方等を工夫して、子どもたちにとって「わかりやすい授業」を行っている。 | 80%以上 | 93 A | 92 A | 86 B | A | A | ・各クラスに掲示してある児童の作品が丁寧であることから、授業中の配慮がうかがえる。 ・基本ができて応用ができると思うので、基礎・基本のしっかりとした定着を図っていただきたい。 | ・ICT機器を活用し、児童が主体的に取り組めるような課題づくりを行うとともに、その時間を通して身についたことを振り返る活動を行う。 ・教師の専門性を生かした教科担当制を推進する。 | |
| | ○特例校としての成果が出ているか。 | 英語にかかわる活動を入学前（1年生）から実施することが、英語への関心を高めることに役立っている。 | 英語の授業は楽しい。 | 特例校として1年生から外国語活動を実施することにより、子どもたちの英語に対する関心が高まっている。 | 80%以上 | 83 B | 83 B | 92 A | B | A | ・児童が楽しく授業を受けている様子がうかがえ、取り組みの成果を感じる。 ・授業を楽しく、わかりやすく教えることにより、児童が勉強に興味を持ってくれると考える。 | ・授業の成果物を掲示したり紹介したりすることで、英語に関する関心をより高める。 ・発達段階に応じた系統性のある内容となるよう、指導計画を適宜見直す。 | |
| 豊 かな 心 の 育 成 | ○児童に挨拶の習慣や適切な言葉遣い、規範意識が身についているか。 | お子さんは、気持ちのよい挨拶や返事を心掛け、丁寧な言葉遣いに気を付けている。 | 気持ちのよい挨拶や返事、「～です。」「～ます。」など丁寧な言葉遣いを心掛けている。 | 気持ちのよい挨拶や返事、丁寧な言葉遣いなどができるように指導している。 | 80%以上 | 67 C | 88 B | 92 A | B | B | ・挨拶ができる児童は積極性が身につくので、挨拶の大切さの理解を促していただきたい。 ・朝の挨拶運動の際には、目を見て元気にあいさつできている。学校に伺ったときには「こんにちは」と児童から挨拶をしてくると、こちらが元気になる。 ・通学班の児童から、挨拶の言葉がけに気持ちのよい返事が返ってくる。校内や通学時にかかわらず、身近な地域の人たちにも挨拶ができるとよい。防犯にもつながると考える。 | ・校内に限らず、登下校中や普段お世話になっている方へのあいさつ、「あいさつ」をする意義等について、継続して指導を行っていく。 ・機会、場面をとらえた挨拶の指導を行う。 ・手本となるあいさつができる児童については、その姿を称賛して認め、周囲へ広げていけるようにする。 | |
| | ○「いじめ」の未然防止に向けた温かい人間関係づくりを行っているか。 | 学校は、「いじめ」が起らないような温かい人間関係づくりに取り組んでいる。 | 先生は、「いじめ」が起らないように、みんなのことをよく見たり、声をかけたりしている。 | 「いじめ」が起きないような温かい人間関係の構築を心掛けるとともに、アンケートや日常の観察を通していじめの未然防止、早期発見・解消に努めている。 | 90%以上 | 84 C | 92 B | 89 C | C | B | ・小さなことを見過ごすことなく、先生方で情報を共有し、連携を図り、「いじめ」に対して取り組んでいることがうかがえる。学年を越えた指導を、今後も継続していただきたい。 ・いじめの元となりうる「あだな」をつけない方向でとメディアに出ていた。相手の人格を尊重する呼び方を意識させていく必要がある。 | ・日頃の児童観察から実態把握に努め、居場所づくりや好ましい人間関係づくりを支援する。 ・児童の様子を全職員で共有し、学年を越えた指導・支援を行う。 ・相手を思う言動について、称賛し「自己有用感」を高め、逆に人の心を傷つけてしまったときには相手の立場に立って振り返らせる。 | |
| | ○「いじめ」の未然防止に向けた温かい人間関係づくりを行っているか。 | 学校は、「いじめ」が起らないような温かい人間関係づくりに取り組んでいる。 | 先生は、「いじめ」が起らないように、みんなのことをよく見たり、声をかけたりしている。 | 「いじめ」が起きないような温かい人間関係の構築を心掛けるとともに、アンケートや日常の観察を通していじめの未然防止、早期発見・解消に努めている。 | 90%以上 | 84 C | 92 B | 89 C | C | B | ・小さなことを見過ごすことなく、先生方で情報を共有し、連携を図り、「いじめ」に対して取り組んでいることがうかがえる。学年を越えた指導を、今後も継続していただきたい。 ・いじめの元となりうる「あだな」をつけない方向でとメディアに出ていた。相手の人格を尊重する呼び方を意識させていく必要がある。 | ・日頃の児童観察から実態把握に努め、居場所づくりや好ましい人間関係づくりを支援する。 ・児童の様子を全職員で共有し、学年を越えた指導・支援を行う。 ・相手を思う言動について、称賛し「自己有用感」を高め、逆に人の心を傷つけてしまったときには相手の立場に立って振り返らせる。 | |

令和2年度 千代田町立西小学校 学校評価一覧表②(様式2)

| 評価対象 | 評価項目 | 羅針盤 | | | | 具体的 数値目標 | 自己評価 | | | | 学校関係 者評価 | 学校関係者評価委員の意見 | 今後に向けての学校の考え |
|-------------|---|--|--|---|-------|-------------|---------|---------|----|----|---|--|--------------|
| | | 保護者向け | 児童向け | 職員向け | | | 保護者 | 児童 | 職員 | 総合 | | | |
| 健康 体力づくり | ○児童に健康の保持を意識した生活習慣が身についているか。 | お子さんは、食事や睡眠、ゲームの時間などについて、規則正しい生活習慣が身についている。 | あなたは、早寝早起きや食事、ゲームの時間などについて、規則正しい生活を心掛けている。 | 食事や睡眠など、規則正しい生活が身に付くように指導している。 | 80%以上 | 60 C | 74 C | 77 C | C | B | ・食事やゲームに関しては、家庭で意識していただくことが前提だが、学校の先生方も指導していると感じる。家庭と連携した推進を図り実態に応じた指導を続けていきたい。 | ・養護教諭や栄養教諭の生活指導や食育指導を継続・充実させ、食生活・睡眠等の生活習慣の改善に当たるとともに家庭への協力を仰ぐ。 ・ゲームが及ぼす悪影響について、発達段階に応じた指導を行う。 | |
| | ○体力のある児童が育っているか。 | お子さんは、体育の授業や休み時間、帰宅後や休日に積極的に体を動かし、体力をつけるようになっている。 | 体育の授業や休み時間、帰宅後や休日に積極的に体を動かしている。 | 体育の授業や休み時間など、子どもたちが体を動かす時間を確保し、体力向上に努めている。 | 80%以上 | 65 C | 83 B | 75 C | C | B | ・休み時間では、外で元気に体を動かしている児童が多いと感じる。 ・報道などで「今現在の児童と昔の児童の体力を比較するとどうか」という話をされるが、現代に合った体力の維持に努める必要がある。健康で体力があることの大切さを理解させていくことが重要だと考える。 ・野外活動などで楽しみながら体力づくりすることもよいと考える。 | ・休み時間等、外で遊ぶことを奨励するとともに、学級や学年全体で遊んだり活動したりする機会を設ける。 ・年間を通して、一人でもできる運動・体力づくり(なわとびなど)への取り組みを奨励する。 ・家庭でできる簡単な運動(室内運動を含む)紹介し、家庭学習の一つとして取り組めるようにする。 | |
| 安全教育の 推進 | ○緊急事態や災害が発生したとき、児童が自分自身で身を守る意識が高まっているか。 | 学校は、「不審者対応訓練」「避難訓練」などを通して、子どもたちが自分自身で身を守る意識を高める指導に取り組んでいる。 | 「不審者対応訓練」や「避難訓練」を行うことで、もしものとき安全を考えて行動することができる。 | 「防犯訓練・避難訓練」を通して、子どもたちの「自分で自分の身を守る」意識を高める指導を行っている。 | 80%以上 | 95 A | 92 A | 94 A | A | A | ・近年の台風、地震等では、防災に対する意識は高まっていると思う。「いつ・どこで」発生するかわからないのが災害である。日頃の訓練が身を助けるので、地域の防災組織等連携をとり、指導継続していただきたい。 | ・突然の事件や災害から「自分の身は自分で守る」という意識を高めさせるため、事後の指導(振り返り)を充実させた訓練を実施する。 ・事件や災害発生時に、職員が対応できるように基本的な動き(マニュアル)の確認、見直しを行う。 ・危険につながるかの視点をもって確実な安全点検を行う。 | |
| | ○適切な交通安全指導・対策がなされているか。 | 学校は、事故ゼロを目指し、保護者や地域と連携した交通安全指導や、登下校時の安全等についての指導をしている。 | 交通事故にあわないように、安全に気をつけて、登校している。 | 事故ゼロを目指して、登下校時の交通安全や危険回避の意識について指導している。 | 80%以上 | 90 A | 96 A | 88 B | A | A | ・テレビで頻繁に子どもの死亡事故のニュースが放送されている。本町は、通学路の歩道割合が低いので安全指導を繰り返し行っていただきたい。 ・朝の通学班ごとの登校は、班長が責任をもって安全に気を付けている様子がうかがえる。PTAをはじめ、各ボランティア団体と連携を取り、指導を続けていただきたい。 | ・登校班での安全な歩行について指導を徹底する。 ・通学路点検を実施し、通学路の安全性を確認するとともに、危険箇所については全職員で情報共有し、児童への啓発を図る。 | |
| 信頼される 学校 | ○保護者から理解を得るための情報提供・対応が適切に行われているか。 | 学校・学年・学級だよりや連絡帳等により、学校のことやお子さんの様子がわかる。 | 学年・学級だよりや連絡帳等により、学校・学級や子どもたちのことを分かりやすく伝えている。 | | 80%以上 | 89 B | | 86 B | B | A | ・Webページの充実が図れるとよい。 ・情報の共有化、意思の疎通、情報公開(開かれた学校)を行い、信頼関係をより強くしてけるとよい。 ・先生方が保護者、各家庭の状況を尊重し、対応している様子から、信頼されていると感じる。 | ・連絡帳や通信を活用し、学校・学年・学級の取組や活動、児童の様子などを伝えていく。 ・HPの定期的な更新やHPで必要な情報提供を行う。 | |
| | | お子さんの様子などについて相談したいことがあるとき、連絡がとりやすい。 | 心配なことや悩み事があるとき、先生に相談しやすい。(先生は、相談にのってくれる。) | 保護者や子どもにとって相談しやすい人間関係作りを行っている。 | 80%以上 | 92 A | 81 B | 91 A | A | A | ・保護者と連絡をよく取っていて、児童の様子を共有していると感じる。 ・常に児童の表情(感情)の把握に努め、先生から話しかけるなど児童の心理状況を見極め、適切な対応をお願いしたい。 | ・連絡帳や電話等を活用した家庭との情報共有や情報交換を継続していく。 ・児童言動の変化を見取り、保護者へ速やかな連絡・情報提供を行う。 | |